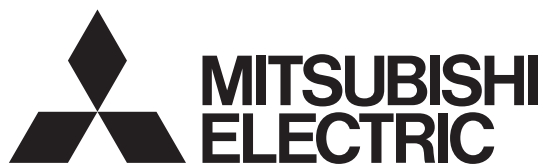




CO----KG



## 三菱電气温水器

深夜電力8時間

形名

SR-151G  
SR-201G

## 据付工事説明書

(販売店・工事店様用)  
工事完了後、本書をお客様へお渡しください。

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付工事の前に、この「据付工事説明書」を必ずお読みください。この説明書に記載されていない方法や保証書と適合しない内容で工事された場合、製品を改造した場合、また、当社指定部品を使用せず工事された場合、事故や故障が生じたときには責任を負いかねます。

### お願い

- 販売店または専門業者が施工してください。
- この製品は、単相200Vで動作します。
- 製品、梱包材等を廃棄する際には、法令等に基づいた適切な処置をお願い致します。
- この製品は、国土交通省告示第1447号(平成25年4月1日施行)に適合した設置工事が必要です。必ず、当社指定の据付工事をしてください。
- 運搬するときは、前面カバーを上にして本体上部のとってと脚を持ってください。また、高層住宅などへのつり上げ運搬は、つり上げ台を使用してください。
- 製品の上面には上がらないでください。変形することがあります。
- 降雨中は前面カバーを開けないでください。
- 施工後すぐに使用しないときは、凍結防止のため、必ず温水器の水抜きを行なってください。

### もくじ(工事の流れ)

#### 1.安全のために必ずお守りください

外形寸法図  
同梱付属部品  
現地で使用する主な部品

(裏面に記載してあります。)

#### 2.据付工事

- 2-1.据付場所の選定
- 2-2.基礎工事
- 2-3.脚部固定工事
- 2-4.上部振れ止め工事

#### 3.配管工事

- 3-1.本体配管工事
- 3-2.配管例
- 3-3.凍結防止工事
- 3-4.保温工事
- 3-5.階下給湯

#### 4.電気工事

- 4-1.配線工事
- 4-2.アース工事

#### 5.据付工事後の確認

#### 6.試運転

#### 7.お客様への説明

## 1.安全のために必ずお守りください

■本文中に使われる図記号の意味は次のとおりです。



禁止



指示に従う



アース線接続



### 警告

誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷に結びつく可能性があります。



準備と確認



- 上水道直結の配管工事は、当該水道局(水道事業者)指定の給水装置工事業者が指定された配管材料を使用して施工する(配管破損による水漏れの原因)
- 電気工事は、「電気設備に関する技術基準」及び「内線規程」にしたがって第二種電気工事士\*が施工し、必ず、専用回路を使用する(火災・感電の原因)



設置



- ガス類、引火物の近くに設置しない(ガスボンベからは2m以上離す)(発火の原因)
- 湿気の多い場所に設置しない(火災・感電の原因)



工事



アース線を必ず接続せよ

**アースは確実に取り付ける**(故障や漏電のときに感電の原因)  
感電事故防止のため、「電気設備に関する技術基準」及び「内線規程」にしたがって第二種電気工事士\*がD種接地工事をしてください。



- 漏電遮断器の動作を確認する**(故障のまま使用すると漏電のときに感電の原因)
- 電源線は、中間接続をせず、所定のケーブルを使用して確実に接続する**(発熱して火災の原因)
- 凍結防止ヒータの施工についての詳細は、凍結防止ヒータに同梱の説明書にしたがう**(電源コードや発熱体をねじったり、折り曲げたり、重ねて巻いたり、束ねたり、密着巻きをしたり、断線させたりすると、発火・火災の原因)
- 据付は質量に十分に耐える所に確実にを行う(転倒や落下によるけがの原因)
- 当社指定部品を必ず使う(火災・感電・水漏れの原因)

※工場・ビル等への設置で、一定要件を満たす場合は第一種電気工事士



### 注意

誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつきます。



工事



- 通電はタンクを満水にしてから行う**(ヒーターが過熱して発火の原因)
- 温水器の脚をアンカーボルトで固定する  
2階以上に据付ける場合は、天部も上部振れ止め金具で固定する(地震などにより転倒し、けがの原因)
- 床面の防水・排水処理をする(水漏れによる損害の原因)
- 凍結防止対策をする(配管破損による水漏れ、やけどの原因)
- 工事作業中は手袋を着用する(着用しないとけがややけどの原因)
- アンカーボルトが壁内のラス網と電氣的に絶縁している状態で上部振れ止め金具を壁に固定する(絶縁していないと漏電のとき火災・感電の原因)
- 排水トラップを設ける(下流ガスが逆流して臭気が上がってきたり、本体、配管が腐食し損傷や水漏れの原因)
- 間接排水工事を(タンクが破損し水漏れの原因)
- シャワー給湯栓はサーモスタット付の湯水混合栓(逆止弁付)を使用する(やけどの原因)
- 屋外で据え付ける場合は、風が当たらない安定した場所に仮置きする(強風によって製品が転倒し、けがの原因)

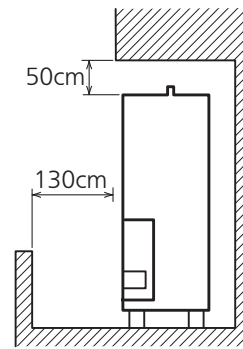
## 2.据付工事

●貯湯ユニットは、国土交通省告示第1447号(平成25年4月1日施行)に適合した設置工事が必要です。  
必ず当社指定の据付工事をしてください。

●この電気温水器は「耐震クラスB」対応です。  
※耐震クラスとは、(一財)日本建築センター「建築設備耐震設計・施工指針」における局部震度法による設備機器の地震力に基づく指標。

### 2-1.据付場所の選定

- この製品は屋内専用です。雨のかかるようなところには絶対に据え付けしないでください。
- 浴室など湿気の多いところには据え付けしないでください。
- 浄化槽の近くには据え付けしないでください。
- 配管の放熱口を少なくするため、使用頻度の多い台所近くが最適です。
- 室内(機械室など)に据え付ける場合は、結露防止のため、通気口を設け、密閉室にしないでください。
- 小空間へ設置する場合は、膨張水によって、温水器の下部や小空間の壁などに結露して、温水器が故障したり、壁が吸水して落ちることがあります。結露対策として、必ず以下の事項を行なってください。
  - 排水ホッパーは温水器の真下にこないようにしてください。
  - 室内に換気扇等を設けて、室内の湿気を排除してください。
- 保守、点検に必要なスペースを確保してください。また、本体が故障したときや交換時の搬入、搬出ができるように側面のスペースも考慮してください。



メンテナンススペース寸法



アンカーボルト位置

### 消防法基準適合組込形

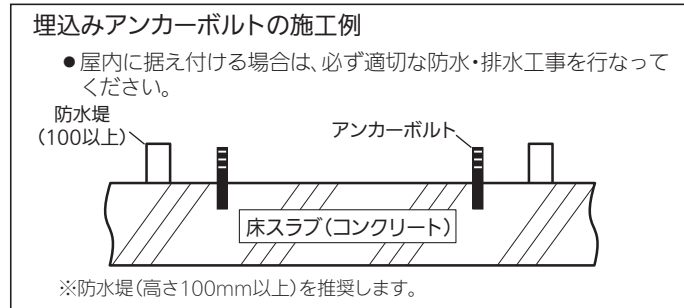
この温水器は消防庁告示第一号(対象火気設備等及び火気器具等の離隔距離に関する基準)に適合しています。建築物の可燃物等からの離隔距離は右表に掲げる値以上の距離を保ってください。

可燃物からの離隔距離(cm)			
上方	側方	前方	後方
0	0	0	0

### 2-2.基礎工事

- 温水器の満水時の質量(外形寸法図参照)、及び基礎の質量に十分耐える地盤に据え付けてください。
- 満水時の質量(外形寸法図参照)に十分耐える基礎工事をしてください。
- 床面の防水・排水工事を行なってください。
- 基礎工事は下図にしたがって行なってください。

<寸法単位:mm>



- コンクリート圧縮強度:18MPa以上
- アンカーボルト引き抜き力:6.86kN以上

### 【お願い】

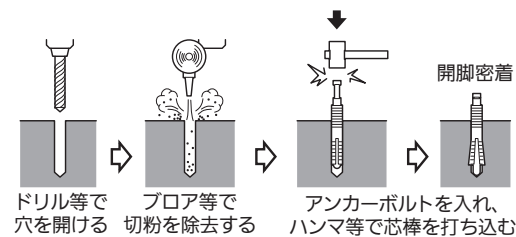
- 買い替え時、アンカーボルトの位置が異なっているときは、新たにアンカーボルトを打ってください。
- アンカーボルトの下穴は下表を参照してください。めねじアンカーボルトは使用しないでください。

アンカーボルト(脚固定用 形名:GZ-B3F) 寸法(mm)

直径	全長	ねじの長さ	ドリル径	埋込み深さ*
10	100	30	10.5	80

※:耐震クラスB、地階及び1階並びに敷地の部分に設置時は、埋込み深さ:60mm  
基礎端面からは、アンカーボルト埋込み深さの2倍以上としてください。

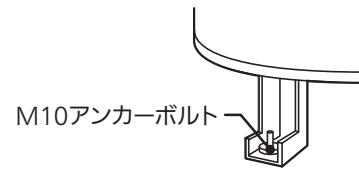
### 芯棒打込み式おねじアンカーボルトの施工例



### 2-3.脚部固定工事

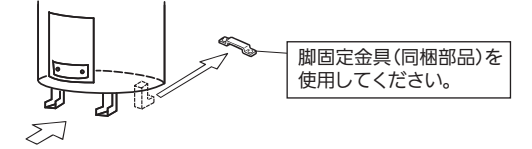
- 必ず水平に据え付けてください。
- 下記①または②より選択し、温水器の脚部をアンカーボルトで固定してください。強度は同一です。

#### ①すべての脚がアンカーボルトで固定できる場合



(1)M10アンカーボルトを使用して、脚3本を固定する

#### ②後脚がアンカーボルトで固定できない場合



- (1)脚固定金具をM10アンカーボルトで固定する(2カ所)
- (2)本体を矢印の方向に移動させ、後脚を脚固定金具の爪にはめ込む
- (3)前脚をアンカーボルトで固定する

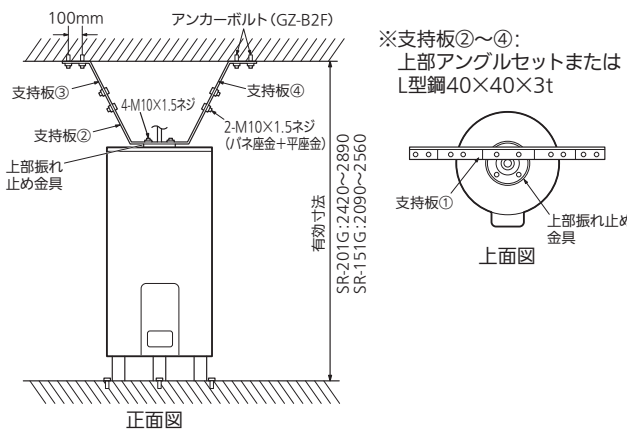
- 脚を直接アンカーボルトで固定できない場合など、脚固定金具を使用して設置する際は、地震による転倒や移動を防止するため、設置階を問わず、上部振れ止め工事をしてください。上部振れ止め工事ができない場合は、以下の事項を厳守ください。
  - 万一、製品が転倒・移動した場合でも、人に危害が及ぶおそれがない場所へ設置してください。
  - 製品の転倒・移動により想定される衝撃が作用した場合においても、著しい破壊が生じない丈夫な壁、囲いを製品周囲に設置してください。

### 2-4.上部振れ止め工事

- 2階以上に据え付ける場合は、必ず天部も上部振れ止め金具で固定してください。
  - 別売の上部アンクルセット(天井固定用または壁面固定用)が必要です。

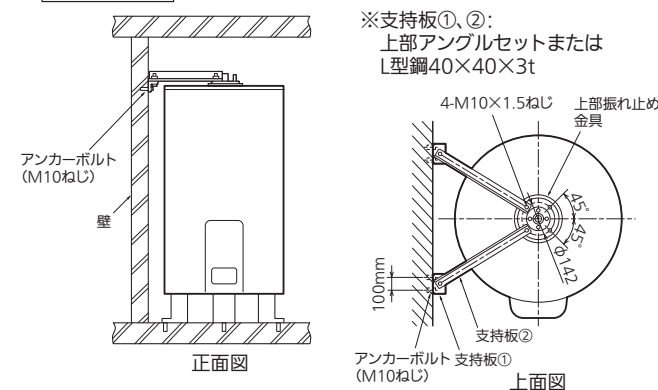
**注意** アンカーボルトが壁内のラス網と電氣的に絶縁している状態で上部振れ止め金具を壁に固定する(絶縁していないと漏電のとき火災・感電の原因)

#### 天井固定例



- (1)上部振れ止め金具に支持板①を固定します。
- (2)支持板①に支持板②を固定します。〈正面図〉
- (3)支持板②に支持板③、支持板④を固定します。〈正面図〉  
(支持板は現地の施工に合わせて適当な長さにカットしてご使用ください。)
- (4)支持板③、支持板④を天井にM10アンカーボルトで固定します。〈正面図〉

#### 壁面固定例



- (1)壁面に支持板①をM10アンカーボルトで固定します。
- (2)上部振れ止め金具と支持板①を支持板②で固定します。  
(支持板②は現地の施工に合わせて適当な長さにカットしてご使用ください。)

※温水器設置場所が壁面より離れている場合は、支持板②を組み合わせてお使いください。その場合、支持板どうしの固定は必ず2箇所以上行なってください。

- 【お願い】
- 引張荷重が4.9kN以上に耐える壁、または棧を設けてください。
  - アンカーボルトは引き抜き力が2.45kN以上になる施工をしてください。
  - 後打ちアンカーボルトの場合は右表のものをご使用ください。

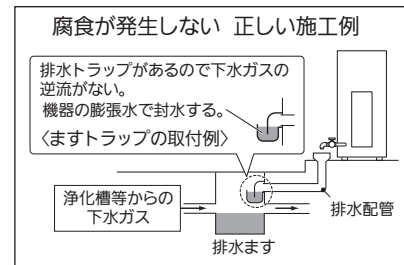
アンカーボルト(上部固定用 形名:GZ-B2F) 寸法(mm)

直径	全長	ねじの長さ	ドリル径	埋込み深さ
10	60	25	10.5	40



# 3.配管工事

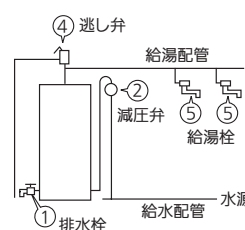
- この機器は、労働省労働安全衛生法及び日本工業規格(JIS)により水頭圧10m以下で使用することが義務付けられているため、必ず減圧弁及び逃し弁を取り付けて使用してください。
- 必ず水道法に定められた飲料水の品質基準に適合した水道水を使用してください。ただし、水質によっては機器やタンク・減圧弁・逃し弁などの寿命が通常より短くなる場合があります。
- 温泉水・地下水・井戸水は使用しないでください。使用期間中の水質が常に水道法の定める品質基準内である担保が取れず、無償保証できません。
- 水栓は逆止弁付湯水混合栓を使用してください。使用する蛇口によっては、出湯量が少ない場合があります。シャワーはやけど防止のため、必ずサーモスタット付湯水混合栓を使用してください。シャワー以外の水栓も、サーモスタット付湯水混合栓の使用を推奨します。(サーモスタット付湯水混合栓を使用する場合、構造により出湯量が極端に少ない場合があります。ご使用になるときは、最低必要圧力、シャワーヘッドなどの仕様を確認して選定してください。手元ストップシャワー、マッサージシャワー等のシャワーヘッドでは出湯量が少なくなります。)お湯を使用する時は、やけど防止のため、湯温を確認してお湯を使用してください。
- 水栓※によっては、水撃(ウォーターハンマー)現象がおこることがあります。水撃防止装置取付などの処置をお願いします。  
※シングルレバー式の湯水混合栓や手元ストップシャワー
- 水源水圧が200kPa以上確保できる場所で使用してください。(750kPaを越える地域は給水一次側に減圧弁を設けてください。)
- 逃し弁、減圧弁、空気抜き弁は当社別売部品を使用してください。当社別売部品以外を使用すると、故障・事故の原因になります。
- ドレンホースは必ず排水ホッパーに導いてください。万一の水漏れ被害を防ぎます。
- 温水器回りの配管部品は、保守、点検がしやすいように取り付けます。
- 断水時にタンクが負圧にならない工事をしてください。(給水側の逆止弁の取り付け、または負圧作動弁付逃し弁の取り付け)
- マンション等、集合住宅に設置する場合は、負圧作動弁付逃し弁(別売部品 形名:GT-T40G)を使用してください。
- 排水配管には必ず排水トラップを設置してください。排水トラップがないと浄化槽などから下水ガスが逆流して、機器が著しく腐食し、故障します。(右図)



**警告** 上水道直結の配管工事は、当該水道局(水道事業者)指定の給水装置工事事業者が指定された配管材料を使用して施工する(配管破損による水漏れの原因)

- 【お願い】
- 配管材料をろう付けした場合は、ろう付け箇所付近に飛散したフラックスを濡れた布できれいに拭き取ってください。
  - 給湯配管は、管の膨張収縮があるため、コンクリート壁やスラブを貫通するときはスリーブを使用し、埋設配管するときは管を固定しないでください。
  - 配管接合部のシール材は耐熱・耐食性のある材料を使用してください。
  - 配管材料はねじ切り・切断などの際、油やゴミが付着するため、加工後は必ず中性洗剤で洗浄してから配管してください。また、キズやバリがないように面取りを行ってください。(通水後は各水栓、減圧弁などのストレーナーにゴミがたまっていないか点検してください。)
  - シールテープを使用する場合は、ねじ部よりはみ出さないようにしてください。
  - 減圧弁1次側の水圧検査は、750kPa以下で行なってください。

●耐熱塩ビ管(HT管)の接着には、必ず耐熱接着剤(90℃以上)を使用してください。また、硬化後に通水してください。使用する接着剤の種類、使用量、養生時間などは接着剤メーカーの説明書にしたがってください。接着剤やフラックスが温水器のタンクに入り、湯から悪臭が発生した場合は以下の処置を行ってください。



- ①一度タンク内の水をわき上げた後、排水してください。タンク内の洗浄をしてください。(10L程度の水を2回くらい入れ替えてください。)
- ②減圧弁のストレーナーの清掃、または交換をしてください。
- ③タンクを満水にしてください。
- ④逃し弁からも1~2分程度排水してください。
- ⑤配管内を洗浄するために、各給湯栓から10分程度、水を流してください。

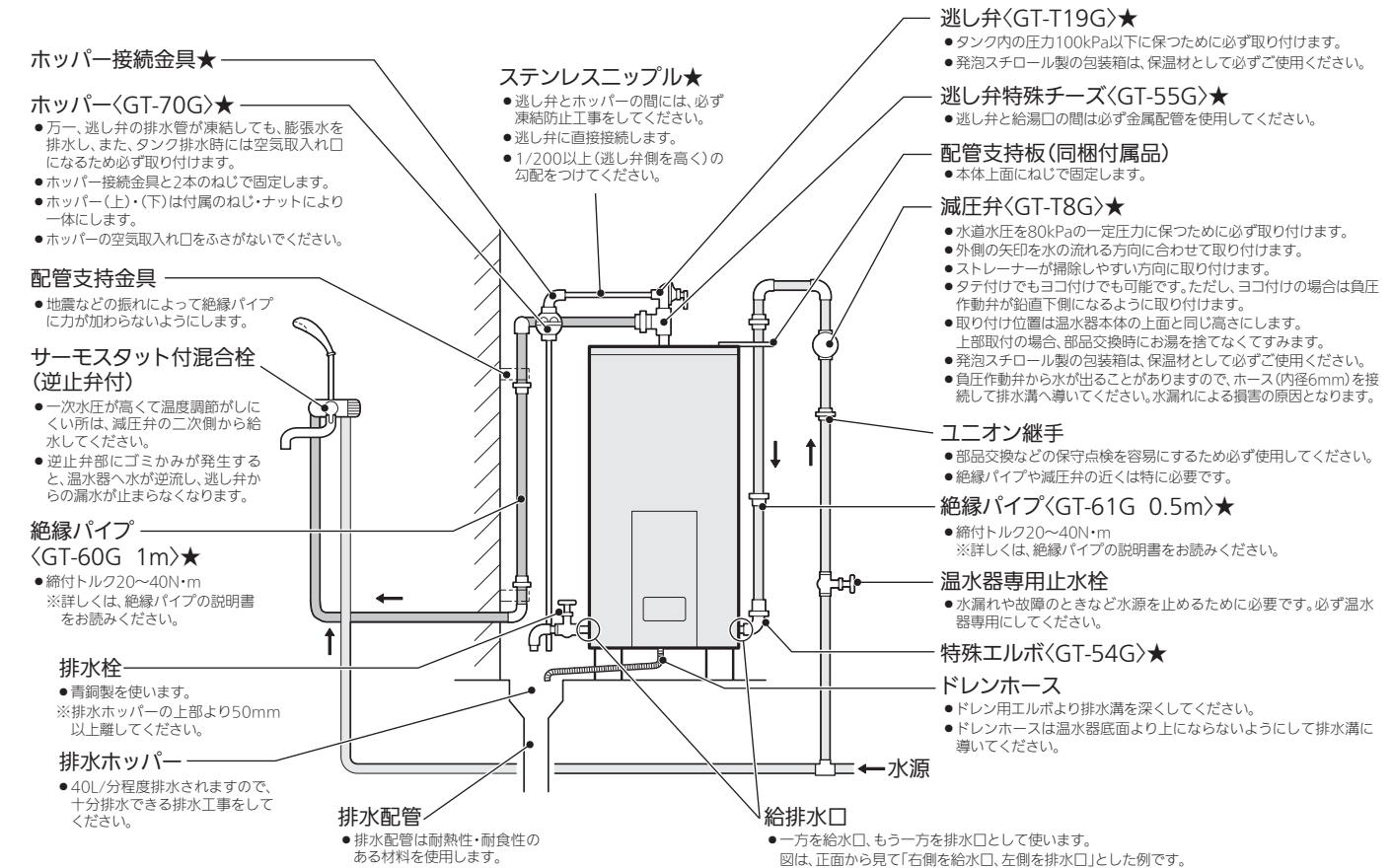
## 3-1.本体配管工事

配管名	耐熱温度	種類	絶縁パイプ	施工上の注意事項
給水配管	—	耐食性を有するもの(銅管など)	GT-61G (20A、0.5m)	●タンクの掃除や点検など排水するときに必要な温水器専用止水栓を取り付けてください。必ずお客様が操作しやすい場所に取り付けてください。
給湯配管	90℃以上	耐食性を有するもの(銅管など)	GT-60G (20A、1m)	●給湯配管は、20A(3/4)の配管を使用します。 ●お湯の飛び散りを防ぎ使い勝手を良くするために必要に応じて空気抜き弁を取り付けてください。(取付方法は3-2項参照) ●階下へ給湯する場合は「3-5.階下給湯」をお読みください。 ●配管部材(配管接続部パッキン等)は耐熱性・耐食性のある材料を使用してください。
排水配管(※1)	90℃	耐食性を有するもの(HT管)	—	●口径φ80以上の排水ホッパーや排水トラップおよびφ50以上の排水管を使用してください。(配管勾配1/50以上) ●わき上げ中に逃し弁から少量のお湯が出るため、必ず排水工事を行ってください。 ●最大毎分40L程度排水されるため、十分排水できる排水工事をしてください。 ●耐熱塩ビ管(HT管)の接着には、必ず耐熱接着剤(90℃以上)を使用してください。(漏水の原因)

※1 本体排水口から排水配管にフレキシ管で導く場合は、長さ2m2曲がり以内で、必ず下り勾配としてください。また、50mmの排水口空間を確保してください。温水器の中に排水があふれるおそれがあります。

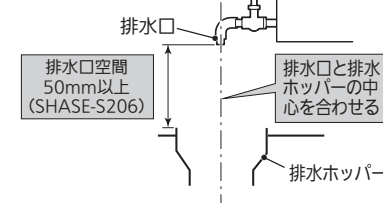
## 3-2.配管例

- 配管が凍結するおそれのある場合は、3-3項(3)を参照し、給水配管途中に水抜き栓を設けてください。
- 給水配管・給湯配管は現地で準備してください。  
★印のついた部品は、標準配管セット<BA-T12G>に同梱されています。

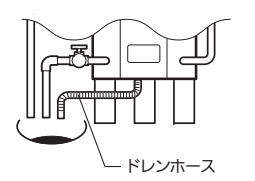


### 温水器からの排水

- 排水時に水が飛び散らないよう、排水口と排水ホッパーの中心位置を確実に合わせてください。(位置がずれていると適切に排水できず、機器の腐食の原因になります。)

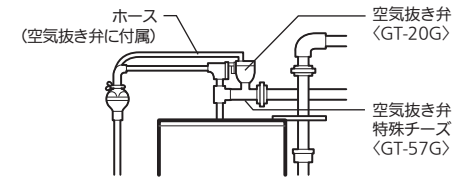


- ドレンホースは排水ホッパーへ導いてください。また、ホースの先端は水に浸からないようご注意ください。(排水性能が著しく低下します。)
- ドレンホースは温水器底面より上にならないようにして排水溝に導いてください。
- ドレンホースは切断しないでください。また、ドレンホースが排水ホッパーから外れそうときは針金などで固定してください。
- ドレン用エルボより排水溝を深くしてください。



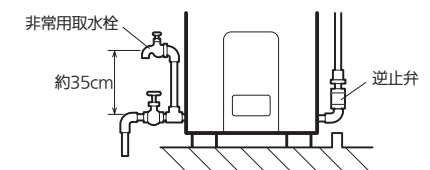
### お湯の飛び散りを防ぐときは

- お湯の飛び散りを防ぎ使い勝手を良くするために必要に応じて空気抜き弁を取り付けてください。
- 空気抜き弁の保温は必ず行ってください。
- ホースをホッパーへ導いてください。また、つぶれないようにしてホッパーに固定してください。



### 地震などの災害時にそなえた配管工事をおすすめします。

- 温水器周辺の配管は、本体の振れを吸収できるように銅管でたわむように配管してください。(配管例参照)
- 給水管が破損したときにタンクの水が漏れないように本体接続部に逆止弁を取り付けてください。
- 断水時にはタンク内の水を生活用水(飲用は不可)として利用できるように、非常用取水栓を排水栓手前の上部に取り付けてください。



### 3-3.凍結防止工事

- 保温工事がしてあっても周囲温度が0℃以下になると機器内の部品や配管が凍結します。配管凍結時は、機器内の部品や配管が破損し、水漏れとなる場合があります。下記にて推奨の凍結防止対策を行なってください。凍結による機器破損の修理は、無償保証の対象外です。
- 配管接続部での水漏れの有無を点検してから、凍結防止工事をしてください。

**注意** 凍結防止対策をする  
(配管破損による水漏れ、やけどの原因)

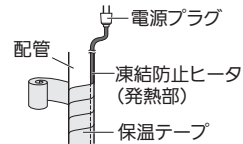
#### (1)凍結防止ヒータを外部配管に設置する方法

※外気温を検出するタイプは温度誤検出のおそれがありますので、配管の温度を直接検出するタイプのものを使用してください。また、配管用の自動温度調節器(サーモスタット)のあるものを使用する場合は、確実に配管に取り付けてください。

市販品の一例：  
東京特殊電線 NFオートヒーター  
(自己温度制御タイプ)  
樹脂管使用時は樹脂管の材質を確認して適切な仕様のもをご使用ください。

#### 施工方法

- 凍結防止ヒータは凍結のおそれがある配管すべてに施工します。
- 各配管の接続口まで設置してください。
- 凍結防止ヒータは何本も使用しますのでコンセントを適当な位置に設けてください。
- 凍結防止ヒータの電源接続部に水がかからないようにしてください。(火災・感電の原因)



- 【お願い】
- 凍結防止ヒータは適切な長さのものをご使用ください。
  - 凍結防止ヒータの取扱方法、操作方法をお客様に十分説明してください。
  - 電源を切って保管する場合は、必ず温水器及び配管の水抜きを行なってください。
  - 寒冷地等の指定事業者と当社で施工についての個別取り決めがなされている場合にはこの限りではありません。

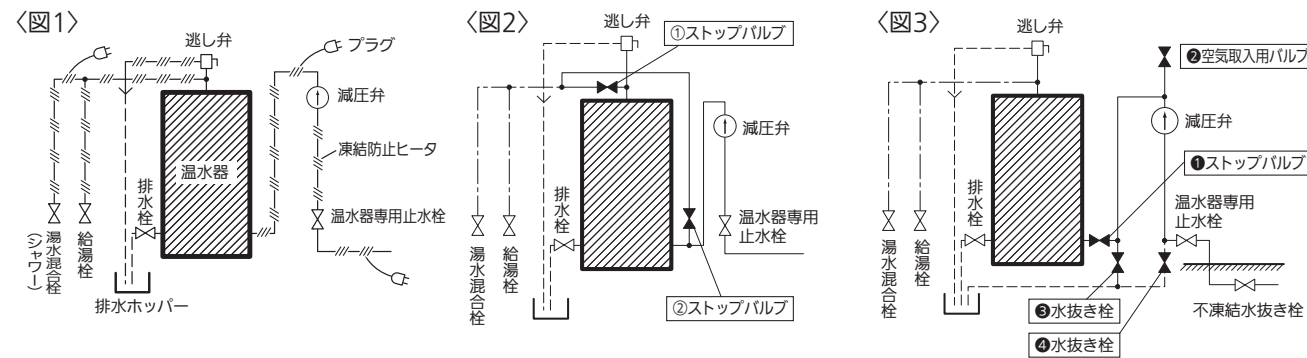
**警告** 凍結防止ヒータの施工についての詳細は、凍結防止ヒータに同梱の説明書にしたがう  
(電源コードや発熱体をねじったり、折り曲げたり、重ねて巻いたり、束ねたり、密着巻きをしたり、断線させたりすると、発火・火災の原因)

#### (2)少量の水を流し続ける方法<下図2> ※凍結防止の間、お湯が使用できなくなることをお客様へ説明ください。

- 1.ストップバルブ(①②)が追加になります。
- 2.ストップバルブ(①)を閉じ、ストップバルブ(②)を開き、各給湯栓・湯水混合を少し開けて糸ひき状態にして水を流します。

#### (3)水抜きによる方法<下図3> ※凍結防止の間、お湯が使用できなくなることをお客様へ説明ください。

- 1.ストップバルブ(①)、空気取入用バルブ(②)、水抜き栓(③④)が追加になります。

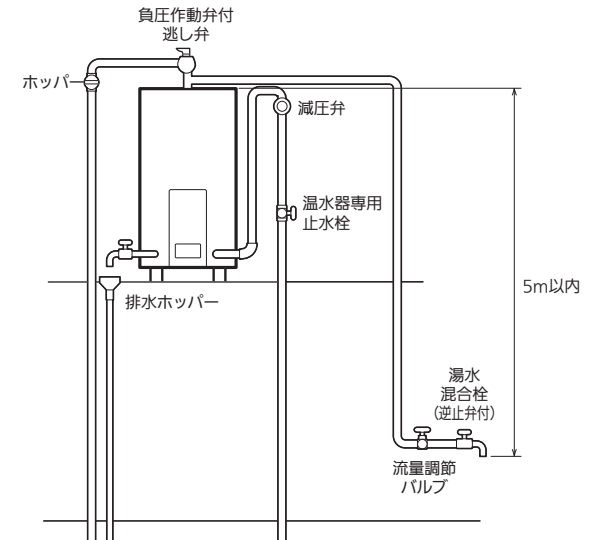


### 3-4.保温工事

- 配管工事終了後、配管接続部での水漏れの有無を点検し、凍結防止工事を行ってから保温工事をしてください。
- 地中配管や屋外など雨露のかかる保温箇所には適切な防水処理をしてください。
- 湯温の低下と凍結防止のため、すべての配管には必ず保温材を巻いてください。
- 減圧弁、逃し弁は付属の発泡スチロール製の包装箱で保温してください。

### 3-5.階下給湯

- 給湯配管は階下5mまで可能です。逃し弁は、必ず負圧作動弁付逃し弁(別売部品:GT-T40G)を使用してください。
- 湯水混合栓の出口と温水器天面の高低差は5mを超えると、負圧によるタンク破損や空気の混ざった湯水が飛び散る原因になります。
- 給湯配管の途中に流量調節バルブ(市販品)を取り付けてください。空気の混ざったお湯が出る場合は、温水器への給水量が不足しています。流量調節バルブで、給水量と給湯量を調節してください。
- 排水工事は、必ず排水ホッパーを使用して階下へ配管してください。排水ホッパーを使用しないと、排水時にタンク内が負圧となり、タンクを損傷し水漏れをおこすおそれがあります。





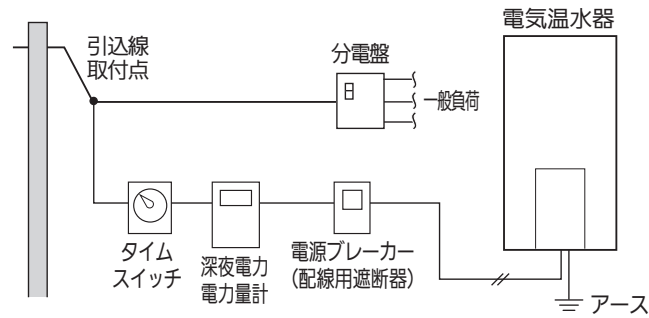
## 4.電気工事

- 電源ブレーカー（配線用遮断器）の定格および電線の太さは内線規程に定められたものを使用してください。
- 第2深夜電力（5時間通電）には対応していません。
- 必ず、タンクを満水にしてから電源を入れてください。未満水通電による機器破損の修理は、無償保証の対象外です。

**警告** 電気工事は、「電気設備に関する技術基準」及び「内線規程」にしたがって第二種電気工事士\*が施工し、必ず、専用回路を使用する（火災・感電の原因）

\*工場・ビル等への設置で、一定要件を満たす場合は第一種電気工事士

### 配線図



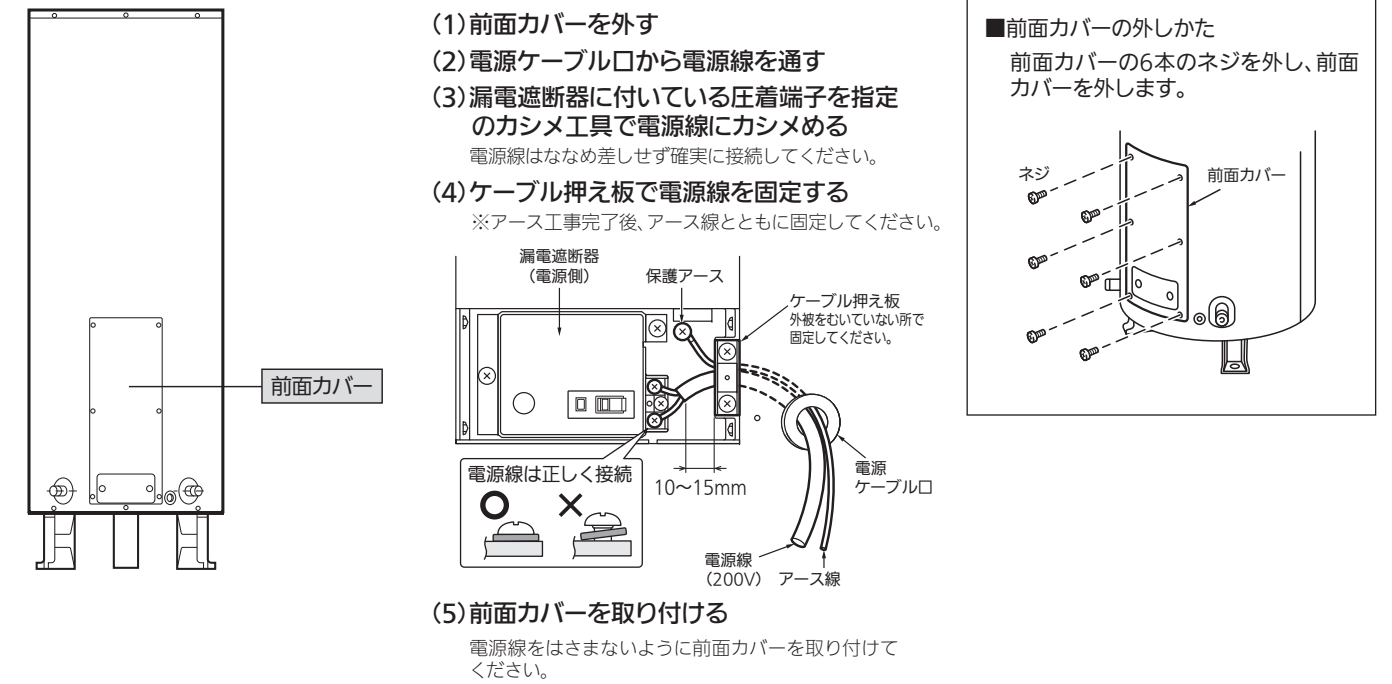
### ブレーカーの定格と電源線太さ・種類

形名	定格電圧	定格消費電力	ブレーカー定格	電源線太さ	種類
SR-151G	単相200V	2.1kW	20A	φ1.6mm	VV
SR-201G	単相200V	2.4kW	20A	φ1.6mm	VV

●CV線を使用する場合の電源線太さ等は、内線規程にしたがってください。

### 4-1.配線工事

- 電源線を固定するときは、端子部に直接外力が加わらないようにケーブル押え板で確実に固定してください。（固定位置は図の寸法にしたがってください。）



**警告** 電源線は、中間接続をせず、所定のケーブルを使用して確実に接続する（発熱して火災の原因）

- 電源線の丸端子の圧着は丸端子に適合した圧着工具で正しく圧着してください。

端子の締付基準トルク: 1.5~2.0N・m

【お願い】 ●配線工事後に電源ケーブル口をパテでふさいでください。万一、温水器から水が漏れた場合や、温水器内へ虫などが侵入した場合は、被害を及ぼすことがあります。

### 4-2.アース工事

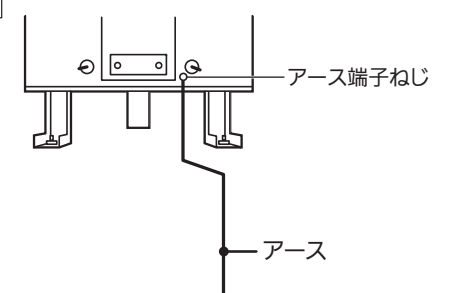
- アース線接続時は、電源ブレーカー及び漏電遮断器を「切」にしてください。
- 水道管、ガス管への接地はできません。
- 避雷針の接地と2m以上離してください。

**警告** アースは確実に取り付ける（故障や漏電のときに感電の原因）  
 感電事故防止のため、「電気設備に関する技術基準」及び「内線規程」にしたがって第二種電気工事士\*がD種接地工事をしてください。

アース線を必ず接続せよ

\*工場・ビル等への設置で、一定要件を満たす場合は第一種電気工事士

- 施工の一例
- (1) アース線（市販品）に丸型端子（市販品 M4）を圧着する
  - (2) アース線を本体下部のアース端子ねじへ接続する  
締付基準トルク: 0.7~1.3N・m
  - (3) アース線のもう一方をアース棒に確実に接続し、アース棒を地中に打ち込む  
（集合住宅の場合はアース配線に接続してください。）
  - (4) D種接地工事の接地抵抗値を確認する



## 5.据付工事後の確認

据付工事後は、下表にあげたチェック項目を確認してください。不具合があった場合は、必ず直してから、『6.試運転』を実施してください。機能が発揮できないばかりか安全性が確保できません。火災や感電その他の原因になります。

■据付状態		判定			判定
1	脚が固定(アンカーボルト及び脚固定金具)されていますか。		5	設置面は、排水・防水処理してありますか。	
2	満水時の重量(外形寸法図参照)に十分耐えますか。		6	排水配管にトラップが設けられていますか。	
3	機器のメンテナンススペースは確保されていますか。		7	上部を固定しましたか。(2階以上に据え付けた場合)	
4	火気・引火物は近くにありませんか。		8	ケースに傷、変形はないですか。	

■配管工事		判定			判定
1	温水器専用止水栓は適切な位置についていますか。		7	給水・給湯配管に絶縁を考慮した配管材が入っていますか。	
2	減圧弁、逃し弁は当社別売部品を使用しましたか。		8	排水管材は90℃の温度に十分耐える材料になっていますか。	
3	排水ホッパーはついてますか。排水口は排水ホッパーの中心にありますか。		9	凍結防止工事は適切ですか。	
4	排水口と排水ホッパーの間隔は50mm以上あいていますか。		10	各水栓、減圧弁のストレーナーは点検しましたか。	
5	ドレンホースを排水ホッパーに導いてありますか。		11	階下給湯をした場合、負圧作動弁付逃し弁を取り付けましたか。	
6	給湯配管材は耐食性、耐熱性に問題ない材質ですか。				

■電気工事		判定			判定
1	電源線の太さは適切ですか。		6	電源線の漏電遮断器への端子の締付けは確実ですか。ゆるんでいたり、電源線をななめに差したりしていませんか。	
2	タイムスイッチ、200V電源ブレーカーはついてますか。		7	保護アース(接地)工事は確実ですか。	
3	タイムスイッチ、200V電源ブレーカーの定格は十分ですか。		8	配線はケーブル押え板で固定しましたか。	
4	電源は200Vですか。				
5	電源線と温水器の接続は、契約した制度(深夜電力)に合わせて適切にされてますか。				

■その他		判定			判定
1	湯水混合栓からの流量は十分ですか。		6	凍結防止の方法をお客様に説明しましたか。	
2	各種配管からの水漏れはないですか。		7	日常点検やお手入れ方法などをお客様に説明しましたか。	
3	逃し弁のレバーを手前に起こして排水栓を開いた時、排水ホッパーから排水があふれることはないですか。				
4	試運転は異常なく終了しましたか。				
5	漏電遮断器を切り、タンクの水抜きをしましたか。(試運転確認後すぐに入居しない場合など)				

■お客様、工事店様サイン欄 据付工事後の状態を工事店様とお客様の間で正しく確認していただくため、上記の内容をお客様と一緒にご確認ください。

形名	お客様		
製造番号	工事店様 <店名> <電話番号>		
据付年月日			



アンカーボルト位置

## 6.試運転

**注意** 通電はタンクを満水にしてから行う(ヒーターが過熱して発火の原因)

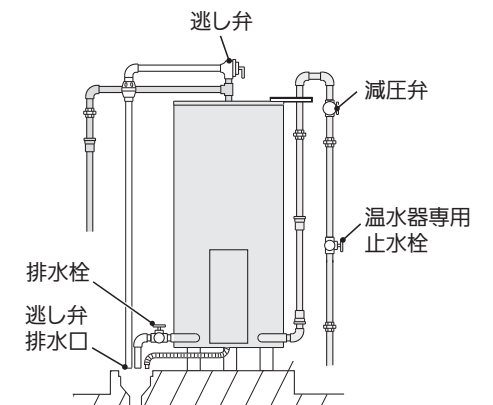
【お願い】●試運転はお客様立ち合いで行なってください。  
●電力会社の了解を得て、タイムスイッチを通電状態にしてから試運転を行なってください。

●給水の前に、給水配管内の砂やゴミを洗い流してください。  
減圧弁のストレーナーを外し、給水配管専用止水栓を開いてください。排水はバケツ等で受けてください。  
給水配管内の砂やゴミが出なくなるまで実施ください。

### (1)タンクを満水にする

- ①蛇口(湯水混合栓)、排水栓が閉じていることを確認する
- ②タンク内の空気を抜くために、逃し弁のレバーを手前に起こす
- ③温水器専用止水栓を開いてタンクに水を入れる  
タンクが満水になると逃し弁排水口から水がでます。満水までの目安は約30分です。(配管や水源水圧によって多少異なります。)
- ④満水になったら、逃し弁のレバーを戻す  
(温水器専用止水栓は、閉じないでください。)
- ⑤給湯配管の空気を抜くために、蛇口(湯水混合栓)のお湯側を開く(1カ所)  
(空気が抜けたら蛇口を閉じてください。)

【お願い】●減圧弁のストレーナーのゴミづまりを点検してください。  
●水が出ない、出が悪い場合は、温水器専用止水栓が開いているか確認してください。また、各水栓のストレーナーも点検してください。

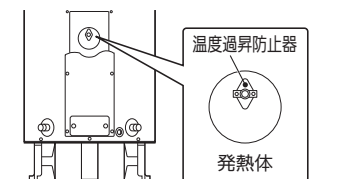


### (2)200V電源ブレーカーを「入」にする

### (3)漏電遮断器の電源レバーを「入」にして、動作を確認する

- 漏電遮断器のテストボタンを押してください。「入」になっていた電源レバーが「切」になれば正常です。点検が終わったら電源レバーを「入」に戻してください。
- ヒーターへの通電を確認します。(電力量計が動作し、本体の「わき上げ中ランプ」が点灯します。)

【お願い】●お湯がわからない場合は、本体の漏電遮断器の電源レバーを「切」にし、タンクを満水にしてから、温度過昇防止器をリセット(中央のリセットボタンを押す)してください。リセット後、本体の漏電遮断器の電源レバーを「入」にし、手順3から再度試運転を行なってください。



### (4)配管及び各配管の接続部から水漏れが無い確認する

【お願い】●深夜電力で契約している場合は、試運転終了後、タイムスイッチの時間を現在時刻に戻してください。  
●試運転終了後、すぐに温水器をご使用にならない場合は、凍結による故障を防ぐためタンク内および配管内の水を抜いてください。

## 7.お客様への説明

- 別冊の取扱説明書にしたがって、正しい使い方をご説明ください。特に「安全のために必ずお守りください」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようにご説明ください。「お手入れと点検」の項目や「凍結防止」については、機器で具体的に説明してください。
- この据付工事説明書は、工事完了後お客様にお渡しください。なお、取扱説明書、保証書等も必ずお客様にお渡しください。
- 物件などで使用者が不在の場合は、発注者(オーナー、ゼネコン)や管理人へご説明ください。
- リフォーム時には必ず試運転が必要となります。
- 次の項目を必ず説明してください。

- ①温水器の設置の際は、最寄りの電力会社へ設置した温水器の形名の届け出を行なってください。ご不明の場合は、必ず、最寄りの電力会社へご相談ください。買替時などで機種変更した場合も、電力会社への申請が必要です。
- ②長期間お使いいただくためには、定期点検が必要なことをご説明のうえ、点検の相談や使用上の質問などに適切に対応してください。また、消耗部品(減圧弁、逃し弁、ヒーター、パッキン、空気抜き弁など)は定期的に交換が必要です。
- ③ガス機器から電気機器へ変更をする際(ガス給湯機から電気温水器への取替など)は、事前にガス事業者への連絡が必要です。ガス事業者への連絡をせずに無断撤去することは法令により規制されていますのでご注意ください。





アンカーポイント位置